

## いのち、いただきます

(ヨハネ六・四七〜五一)

ラジオのパーソナリティ、タレント、エッセイスト、テレビ草創期の放送作家にして伝説の作詞家。ご存知、永六輔さんが逝った。齒に衣着せぬ言動で社会問題を斬った永さんだが、二〇〇五年の「いただきます」論争を覚えての方もまだまだ多いと思う。発端となったのはある親御さんからの投書。曰く「私たちは給食費を払っている側なのに、なぜ『いただきます』と一言させるのか」というのだ。それに対して永さんは『いただきます』はそもそも私たちが生きるために動植物を殺生することへの感謝の気持ちの表現。『金を払っているのだから言わせないうで』というのではないのちでなく金に手を合わせちゃってる」と指摘。なるほどである。私たちの生は他のいのちの死と隣り合わせなのだ。

閑話休題。今朝の箇所ではイエスは自らを「天から下ってきたいのちのパン」と呼び、自らを食べる者は永遠に生きると言われた。この半ばカリバニズムとも言えるイエスの言動は多くの人に混乱を与え、人々はイエスのもとを去った。以下この大胆な宣言の内にあ

るイエスの真意に迫りたい。

### 一・食物は永遠を担保しない

「食育」なることばもあるように人生において食は本当に大切である。おいしい食物は心を喜ばせ、交わりを促進させる。そして食べログなどのサイトはいつも大盛況だ。またよい食事は健康を増進させる。言わずもがなのことであるが、このことについては説教者には実体験がある。「ストレスがあるから」「もう若くないから」「仕方ないから」と自分を甘やかし、好きなものを好き放題食べた結果、体重は約九〇キロ。疲れやすく、足のむくみもひどかった。しかし昨秋思うところあって一念発起し減量に取り組むとどうだろう、適切な運動と栄養に気を使った食生活によつて体重は二〇キロ減。この間血圧を測ったら上が一一六、下が七六。正常どころかも「至適」血圧である。もうメタボとは呼ばせないぞといった感じである。しかし、どんなに食生活を管理し、よい物を食べようと、またイスラエルの民たちに奇跡的に与えられたあの天来の食物であるマナを食べようとも人は永遠に生きることには出来ない。人の死亡率はどこまでいっても百パーセントなのだ。勿論生きるからには健康を保つ方がいいし、私だけではないかあの経済評論家の森永さんも「健康のために、やせたかった」とライザップで告白しているが、どんなに気を付けても死を回避することは出来ないのだ。

### 二・イエスは永遠のいのちを与える

四七節からの区分を読むとイエスは自らをいのちのパンと呼び、それを食べる者は死ぬことがないと主張している。これは血を食べることを禁じられていたユダヤ人たちには非常にショッキングな発言であり、ついには弟子たちまでもがイエスのこの発言に躓いた。

しかし文脈をよく読めば、イエスが語っていることは文字通りの「食人」でないことは明白だ。というのも天から下ってきたパンであるイエスを食べるなら永遠に生きると書かれている文脈(三三節、五一節)の前後には、永遠のいのちはイエスを信じる信仰によつて与えられるものであると書かれているからである(三五節、四七節)。神のみ子であるイエスは私たちの罪の問題、そしてその最大のものである死を滅ぼすために自らのいのちを捨てられた。その事実を受け取るものは、イエスのいのちを食すがごとくにイエスを心の内に入れ、それ以降はイエスのいのちによつて生かされ、最終的には永遠のいのちを得るといのである。ある人々は「キリスト教は来世のことを信じるわけだから、もう少し来世に近づいてから信心すればいいや」と考えるようだが、それは得策ではない。というのもいのちのパンであるイエスを信仰によつて食するものは、その瞬間から永遠のいのちに生かされて

この悩み深い世を勇氣をもつて生きられるからである。そう考えれば福音、良い知らせを聞いたなら、すぐに応答した方がよいのは当然のことなのだ。

\* \* \*

Youtube から一躍スターダムにのし上がった「彼」。しかし彼の顔はティーンのアイドルだけではない。素行の悪さも超一流。パパラッチにはバッドサインを出し、コンサートのドタキャンも茶飯事の問題児ぶり。しかし今から二年前のある日、彼はニューヨークのとあるペンテコステ派の教会の牧師の家に転がり込んできた。彼を一目見て牧師は思った。「奴は確かに悪い。だがまだ二一。ねたみややつかみに耐えながら、この残酷な世界で必死に生きているんだ」牧師はこの青年の友になった。そんなある日のこと彼は言った。「牧師さん、ジーザスのこと、もつと教えてくれよ」福音を聞いた彼はすぐに信じた。そして「今すぐ」洗礼を受けたいという。結局、深夜二時、教会員の召選手の特大バスタブで彼は洗礼を受けてジャスティン・ビーバーは生まれ変わった。今も彼は自らの不安定さと闘ってはいる。だが自暴自棄にはなっていない。祈りが彼を変えているのだ。彼もまたいのちのパンを食べた一人である。友よ、今イエスのいのちを頂こう。人生は変えられる。アーメン。